
夢の中

緑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の中

【Nコード】

N2802N

【作者名】

緑

【あらすじ】

わたしの見える世界が停止した。

（前書き）

頭を軽くしてお読みください。

昼寝をしてから目が覚めて、わたしの眼球に映える世界は停止していた。サッカーをしている子供たちのサッカーボールは宙に浮いたまま停止して、はじけるはずのしゃぼん玉はガラスのように輝いてとまっていた。

すべてが一度に停止している。異様な光景だった。

今日のわたしの服装は清涼感のある白いワンピースとつばが広い白い帽子だ。ワンピースのすそは風もないのに揺れていた。おそらくわたしが歩いているからだろう。太陽の光を脳天からあびているはずなのに、暑いとは感じなかった。なぜだろう。

歩いているうちに色々な人を見かけた。最初に見かけたのはクラスメイトの桑原さんだった。彼女はアイスキャンディを友達と食べながら固まっていた。つん、と桑原さんの頬をつついたが、彼女の頬は石のように硬かった。

そのまま陽気な気持ちで、るるんと鼻歌をうたいながらスキップして、大きなデパートに入った。自動ドアは幸いなことに最初から開いていて、わたしを容易に入れてくれた。わたしが行く場所はもう決まっていた。本屋である。

本屋では店員が営業スマイルをうかべたままマネキン人形のように停止していた。触感には桑原さんのときと同じく、固かった。

わたしはざっと本屋の新刊売り場をまわって、今月中に何が刊行されたのかをたしかめる。毎日たしかめていることだが、今日は好きな出版社の新刊が出ていた。購入しようと思ったが、お金をもっていないし、時間が停止しているいまでは、お金があっても買うことはできないだろう。そもそもわたしはちゃんと普通の世界に帰れるのだろうか。

デパートのてかてかに磨かれた廊下を歩いているうちにふと疑問

が解決した。わたしがいまいるこの世界は夢なのだ。現実が起こっていることではないのだ、と。完璧に自己完結だった。

夢だ、夢なのだ、と念じたところで現実にもどれるようなことはない。仕方がないので、この時間がとまった世界を精一杯満喫することにした。

* * *

「非常に残念ですが、美雪さんは脳死状態です。」

「先生、なんとかありませんか？」

「美雪さんが次に目を覚ますときを待つしかないでしょう。ただし目を覚ましたとしても、美雪さんがもとの美雪さんだとは保証できません。」

「それは、どういうことですか？」

「小さいですが、美雪さんの脳に衝撃がかかっていたのです。もしかしたら記憶障害になっているかもしれません。」

「では先生。美雪はいまいったい、どうしているんですか。ねむっているのですか？」

「そうですね、おっしゃるとおりの状態です。美雪さんは現在、夢の中にいます。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2802n/>

夢の中

2010年10月10日06時24分発行